

## 「情報としての景観特性」の整理について

### 1. 「情報としての景観特性」の整理方法

現代の情報化社会のなかでは、膨大かつ多様な情報がある。そのなかでも、特に、奈良市の景観イメージの形成に大きく影響を及ぼしてきたと考えられる「観光情報」「文学芸術作品」「インベントリー」の3つ種別に区分して整理する。

整理にあたっては、掲載されている情報の名称を記載するとともに、文学作品等の概要を示すことのできるものについては、概要を記載する。

情報の種別と活用資料について

観光情報

近世から近代にかけての名所案内記や絵図を活用する。

・数多く刊行されている名所案内記や絵図のうち、以下の資料を活用した。

資料名称	作成年代	資料の概要	情報化された対象の例
大和国細見図	享保20年 (1735)	菅田屋伊右衛門が、中村取耳齋の作、榕山戈春堂の校合、高木幸助の画、古川忠兵衛の彫刻で出版した大和国絵図。北を上にし、右上に「大和国細見図」と記入。村名などは南を上にして表記するものが多い。郡名や在郷町は四角で囲って表示し、城は二重線で囲い、大和国内の村名は○印を付けて表記。郡境は実線、道は二重線、川は二重線の中に鱗状の模様を入れ、神社や寺院は社・堂舎などを立面で描く。名所旧跡のうち奈良は、大仏・二月堂・新薬師寺・元興寺・興福寺・南円堂など記入する。「国中名所」「国中土産」「南都ヨリ道法」を載せ、名所として南都・春日山・法隆寺・當麻寺・金剛山・三輪山・長谷寺・多武峯を掲げる。	大仏、二月堂、新薬師寺、元興寺、興福寺、南円堂、春日山
大和巡ひとり案内図	寛政8年 (1796)	京都書林菊屋喜兵衛が発行した大和めぐり道中図。表題の左には「京・大阪・伊勢いかにせごえ・高野山・三社廻り・和哥の浦・河内名所」と記し、「神社仏閣名所旧跡順道逆道廻り道等くわしく記す」と述べる。奈良を中心に北は京都、南は吉野・高野、西は亀山・大阪・和歌山、東は津から外宮・内宮・長谷・多武峯・山上を画面に入れ、二本線の道は本街道、一本線の道は逆道廻り道を示している。凡例には、「道中記何れも絵図に引合せ考ふべし」とあり、道中図と裏面の道中記を対照して利用できるように工夫されている。道中記は「京より大和巡り道法名所附」「吉野より高野へ道のり」「高野より和哥浦廻り大坂への道法」「大阪より河内名所まはり大和へ出る道法」「大坂より京へ道法」「京より伊勢参宮道法」に分けて宿、大社大寺、村里名所旧跡など列記して旅行者の便をはかっている。	大仏、春日大社、二月堂、三月堂 など
和州奈良之図	天保15年 (1844)	奈良大仏前の絵図屋庄八が発行した奈良案内図である。従来の縦長図を横長図に改め、下段右には奈良から堺・吉野・高野・名張・伊賀上野・京・大坂・伊勢山田・初瀬・河内・宇治への距離を掲げ、下段中央に南都七大寺の寺院名を、下段左に奈良八景の名所旧跡を列記。左上段には春日大宮御祭・同若宮御祭礼・薪能・二月堂・大仏殿について特記している。その下には、地図に「大坂八里」「はせへ七里」「京へ十一里」などと記すだけでなく、円形を羅針盤をかたどり、12の方角に区切り、地名や寺院と奈良の橋本町からの里数を書き込んでいる。また、西大寺・法隆寺・小泉などの名所を実際の距離よりも接近して示し、里数を加えて相互関係を表すなど、本図には名所案内用として、旅行者の利用度を高める工夫がいろいろ盛り込まれている。	春日大宮御祭、同若宮御祭礼、薪能、二月堂、大仏殿 南都八景、南都七大寺
月瀬嵩尾山長	安政5年	柳原喜兵衛・鹿田清七・鍛冶屋兵蔵が出版した松川半山画、	嵩村・尾山村・長引村

引梅溪真景之図	(1858) 改版	暁晴翁述、井上治兵衛剛刻による月ヶ瀬梅溪図。名張川南岸から梅溪を眺め、月瀬を中央下に配置し、右手に嵩村、名張川の北岸右手には尾山村・長引村集落が見える。両岸には満開の梅を描き、「梅はやし」「此辺尤多し」「一日千本」「見かへり千本」「万本梅」などの見所を記す。	の集落、月瀬梅林
ならめい志よ ゑづ	幕末頃	絵図屋庄八が幕末頃に出版した奈良名所案内図。北を上にして東大寺大仏殿を大きく描き、西に興福寺、東に二月堂・手向山八幡、南東に春日社、南西に猿沢池などを配置。名所の位置関係は分かるが、距離は正確ではない。元興寺の塔や観音堂、般若寺文殊堂も実際の距離より近接して描く。幕末の出版と考えられ、名所にイメージを与えるために、存在しない建物を描いていたらしい。	東大寺、興福寺、手向山八幡、春日社、猿沢池、元興寺、観音堂、般若寺文殊堂、鹿など
奈良名所東山 一覽之図	幕末頃	岡田春燈斎の作で、微塵銅版による幕末期の奈良名所案内図。前景に元興寺・猿沢池・興福寺、後景に二月堂・手向山・若草山・春日山・三笠山・春日本宮を配した名所鳥瞰図である。名所や文字は虫眼鏡がなければ分かりにくく、点景人物は細部まで描かれているが、多くの名所を小紙面に収めるために、元興寺や氷室社のように実際の位置関係と異なる配置になっているところもある。	元興寺、猿沢池、興福寺、東大寺、手向山、若草山、春日山、三笠山、春日社、鹿、鶯塚など
いんばんや絵 図	明治3~15年 (1870~1882)	旅宿印判屋の引札。上段に奈良の名勝古跡を説明し、「是等の眺望吾楼より一眼に居ながら見渡す、其絶景云八ん 御入来を奉希上候」と記す。旅館の立地の良さを強調するため、東の三笠山・春日四社・若草山・手向八幡・二月堂・大仏を猿沢池の南に配置し、実在しない興福寺南大門を描く。	三笠山、春日四社、若草山、手向八幡、二月堂、大仏殿、興福寺東金堂・大塔・南円堂、十三鐘、猿沢池と池畔の八重桜・衣掛柳、采女宮
大和国奈良細 見図	明治7年 (1874)	高橋平三が、松田半平の「画工并著述」で出版した奈良案内図。方位は東を上とし、奈良の町並は平面で現わし、山々は鳥瞰式に表現する。凡例には、町界・神社・井戸・池・小学校・川・寺・掲示場・耕地の印を示し、明治7年4月に改訂された大小区制に基づき、奈良の第1小区から第5小区を色で区別できるようにしている。余白には、奈良・春日山・若草山・三笠山・八重桜・手向山・奈良嶺の由来を解説し、「奈良ヨリ国中并隣国道程」を載せ、「奈良名産略記」に26個の名産を掲げ、「奈良八景」を列記する。解説には、「万葉集」「日本記」「釈書」「大和志」「和州旧跡幽考」と出典を注記し、奥付に「実地景況日誌書ノマ、書記シ、誤謬事件ノ遺漏ナキニシモアラヌ、唯博雅ノ訂正ヲ待ツノミ」と記す。	春日山・若草山・三笠山・八重桜・手向山など
奈良名所古蹟 一覽之図	明治7~19年 (1874~1886)	明治7年から同19年の間に作成された木版の奈良名所案内図。画面左上から右上に二月堂・若草山・春日本宮・春日若宮を望み、左下には南円堂・猿沢池を描き、「殿原範永」「伊勢大輔」「俊成」の和歌や「はせお(芭蕉)」の俳句を載せている。右隅の説明は、春日本宮・春日若宮の由緒を中心に記す。印刷発行は「寧楽趣味の会」であるため、保井芳太みられる。	東大寺、興福寺、若草山、春日社、猿沢池など
奈良名所独案内 全	明治12年 (1879)	橋井善次郎が、金澤昇平の編集、饗泉堂の製版で出版した銅版彩色の奈良名所案内図。跋文で、名所旧跡の道しるべのために本図を作り、「諸君此図によりて道をもとめ給ハ、必ずまよふことなかるへし、号て独案内といふ」と記す。東は春日社や大仏殿など、西は西大寺・唐招提寺・薬師寺を入れ、名所旧跡めぐりに必要な道だけを赤色で彩色する。また、一条通り添いの興福院・不退寺・法華寺のほか、平城宮跡や陵墓も記入する。	春日社、東大寺、西大寺、唐招提寺、薬師寺、般若寺、興福院、不退寺、法華寺、平城宮跡、西大寺、秋篠寺、垂仁天皇陵など
奈良明細全図	明治23年	金澤昇平の製図を後藤七郎右衛門が印刷し、阪田購文堂が	大仏殿、春日社、猿沢

	(1890)	発行した奈良総図。平面鳥瞰両式併用で、東を上にする奈良絵図の伝統を踏襲した銅版図。地図の周囲には、18ヶ所の県内各名所の挿絵を入れ、簡単な解説をする。余白には、平城京の位置を示すために「平城旧都之図」を右下に入れ、「各地名所里程」「奈良近地名所里程」「奈良町諸官衙所在里程」を表にまとめ、「大和物産表」を載せる。また、奈良の有名旅館10軒を列記する。	池、月ヶ瀬 など
奈良名所細見図	明治24年 (1891)	明治24年(1891)に阪田一郎が出版した奈良名所案内図。表紙には「大和奈良名所細見之図 全」とあり、内題に「奈良名所細見図」と記入。石版か銅版による作成。阪田は奈良の書肆購文堂の主人で「大和全国地図」や「大和分郡里程図」も上梓。一部に彩色がある。雲形には南都八景を詠んだ和歌を載せる。本図には、名所に番号が付けられているのが特徴で、1、采女社、2、サル沢池、3、児観音十三かね、4、雪消沢、5、官幣大社春日本社、6、三笠山、7、水谷社、8、若草山、9、八幡宮、10、三月堂、11、二月堂、12、東大寺鐘、13、東大寺大仏殿、14、南大門、15、八重サクラ、16、花の松、17、五重塔、18、金堂、19、南円堂となっている。この番号は奈良見物の順覧コースを示すもので、名所順覧コース案内図として出版したものと考えられる。	采女社、猿沢池、児観音十三鐘、雪消沢、春日本社、三笠山、水谷社、若草山、手向山八幡宮、三月堂、二月堂、東大寺鐘、東大寺大仏殿、東大寺南大門、八重桜、花の松、興福寺五重塔、興福寺金堂、興福寺南円堂
袖珍 大和路便覧一名芳山花菜	明治25年 (1892)	中島徳兵衛が、平塚茂喬の著作、井上如雲斎の浄書、岡田湖林堂の精刻で嘉永2年(1849)に開板した「大和路便覧」の再版本。題箋には「新選挿図大和路便覧 附芳山花菜完」とあり、内題に「袖珍大和路便覧 一名芳山花菜 全」と記す。最初に「京より大和巡り道筋名所指南」と「大坂ヨリ河内大和巡り路程大略」で京や大坂から奈良・大和までのコースと名所を示す。次に「南都より吉野迄名所古跡略記」で奈良から吉野までのコースと名所を示し、「大和国名所古跡指掌図」で名所・古跡の位置関係を一覧し、続く「吉野山名所案内大概」で吉野の名所を詳しく紹介する。	東大寺大仏殿、東大寺二月堂、手向山八幡宮、春日大社、興福寺、猿沢池、元興寺、西大寺、薬師寺、唐招提寺 など
月瀬榊溪躑躅川真景	明治26年 (1893)	岡本重五郎が、岡本八谷の作図で出版した月ヶ瀬榊溪図。題箋には「月瀬榊溪十六勝地真景図 全」と記し、「風流人士の道しるべの葉となす」と述べる。右上段には「官許 月瀬榊溪躑躅川真景」と記載。名所に赤丸、道に茶色、人家の屋根(茅葺)に黄色を彩色、右下には十六勝地の名称と方位・距離を列記し、実測図を載せ、道を赤線で示す。	月瀬梅林 など
南都社寺名所記	明治30年 (1897)	筒井梅吉が発行した奈良名所案内記。猿沢池周辺から興福寺境内春日社境内、手向山八幡宮・二月堂周辺までの四十七ヶ所の名所について、見物順に 印で名所を記して由緒を簡潔に書いている。続いて、大仏殿及び回廊の絵の上に大仏の大きさを詳述し、その由緒を述べる。さらに、南大門、氷室社、雲井坂など七ヶ所の名所を見物順に列記し、ほかに「めいぶつめいさん多しといへ共これをりやくす」という言葉で終わる。内容的には、絵図屋のベストセラーの一つである「改正絵入南都名所記」の文章をそのまま用いている。この墨刷一枚物は定価一銭五厘という安価な絵図なので大量に印刷されたと思われる。	猿沢池、采女宮、衣掛柳、南大門、春日大社、飛火野、東大寺大仏殿、東大寺二月堂、春日大社、若草山 など
奈良名勝全図	明治31年 (1898)	筒井梅吉が明治31年に発行した奈良案内図。道は黄土色、雲形・桜・寺社の建物の柱に赤色、建物の側壁に茶色、屋根・池に水色、山・樹木・芝生に緑色を用い、名所などは四角の黒枠で囲み赤地に墨色で記入する。	東大寺大仏殿、二月堂、興福寺五重塔、興福寺南円堂、猿沢池、春日大社、春日大社一の鳥居、荒池、若草山 など
奈良市實測全	明治33年	筒井梅吉が、明治33年に発行した縮尺15,000分の1の奈	猿沢池、南円堂、北円

図	(1900)	良市観光案内図。現在の荒池は新池と記入され、池の中央に堤(現在の県道奈良・天理線)がない。地図の周りには猿沢池から奈良皇室博物館までの21の名所の挿絵を巡覧コースの順に並べ、簡単な解説を付けている。	堂、金堂、五重塔、東金堂、花松、十三鐘大師堂、一の鳥居、春日若宮、全南門、春日日本社、水谷川本橋、若草山、手向山八幡宮、三月堂、二月堂、大仏殿、大仏、正倉院、南大門、奈良皇室博物館
實地踏則 奈良市街全図	大正6年(1917)	日下伊兵衛が著作・印刷・発行した奈良市街図。発行元は和楽路屋で、販売所は奈良の筒井錦華堂。縮尺は8千分の1で、池や河川に濃い青色、主な名所や施設は橙色の円形に書く。下段には三条(奈良)駅からの官衙学校及名所距離表を載せ、上段右に10万分の1の付近精図、左に縮尺60万分の1で近畿に於ける奈良市の位置を示す。裏には、名所の説明と春日神社・二月堂・大仏殿・南円堂・若草山・大仏鐘楼・猿沢池・手向山八幡宮・正倉院宝蔵の写真を載せる。	春日神社・二月堂・大仏殿・南円堂・若草山・大仏鐘楼・猿沢池・手向山八幡宮・正倉院宝蔵
奈良名勝案内図	大正14年(1925)	駿々堂書店が発行した奈良名勝案内図。市街地は肌色、公園地は黄色、河川・池は水色、田圃はうす緑、山は緑にし、春日社地や御階地も区別して彩色している。右下には、「奈良名所里程表」を載せ、図中には、名所めぐりコースを国鉄奈良駅と大軌道のりば(現近鉄奈良駅)から赤線で示す。また、大きい赤丸で正倉院・大仏殿・手向山八幡宮・春日神社を囲み、二月堂・良弁杉・春日若宮・雪消沢・片岡梅林・浅茅原・十三鐘・南円堂・猿沢池・練兵場は小さい赤丸で囲む。裏には奈良名所案内総説・交通機関・遊覧の順序と各名所の説明があり、主な名所12ヶ所の写真を載せる。	正倉院、大仏殿、手向山八幡宮、春日神社、二月堂、良弁杉、春日若宮、雪消沢、片岡梅林、浅茅原、十三鐘、南円堂、猿沢池、練兵場 など
奈良電車沿線案内	昭和3年(1928)	奈良電鉄の沿線案内図。この沿線案内図の裏には、運賃表、定期券の割引表、団体割引表、各停車駅の名所が記されている。	大仏、興福寺五重塔、春日大社 など
奈良御案内	昭和3~9年(1928~1934)	鹿や五重塔、もみじなどを図案化した表紙に「奈良御案内」と記す。裏表紙は大軌・参宮・奈良電車の沿線図を載せ、見開きの右には奈良市内遊覧図、左に奈良県物産館の案内がある。遊覧図には遊覧コースを矢印で示し「遊覧は矢ノ方向二進ムベシ」と記す。これによれば、大軌終点から東向通りを南下、三条通りを東に進み、南円堂、猿沢池、春日神社本社・若宮と進み、そこから北の手向山八幡宮、三月堂、二月堂、大鐘、大仏、南大門を見て、大軌終点電車のりばに戻るのが推奨観光ルートであった。	三条通、南円堂、猿沢池、十三鐘、五重塔、奈良ホテル、荒池、一の鳥居、サギ池、春日神社本社・若宮、春日野、三笠山、手向山八幡宮、二月堂、大仏、公会堂、東大寺南大門 など

(資料：奈良県立図書情報館HP 絵図展示ギャラリー)

## 文学芸術作品

古代から近現代までの文学作品や詩歌、写真などを活用する。

- ・古典文学作品としては、「万葉集」や「古今和歌集」などに詠われている詩歌
- ・近現代の文学作品としては、志賀直哉や和辻哲雄、司馬遼太郎、亀井勝一郎、尾崎一雄、會津八一などの著名な文人が著した奈良を舞台とした文学作品とした。
- ・写真は、入江泰吉の写真のうち「もう一度見たい入江作品」(入江泰吉記念写真美術財団、奈良市写真美術館発行)として挙げられている作品とした。

## インベントリー

「南都八景」や「南都七大寺」などの古くからのインベントリーと、「日本の歴史公園100選」などの近年新たに選定されている新しいインベントリーを活用する。また、「世界遺産」の登録も一つのインベン

トリーとして捉え、この分類のなかで示すこととする。

- ・南都八景  
東大寺鐘、春日野鹿、南円堂藤、猿沢池月、佐保川蛸、雲居坂雨、轟橋旅人、三笠山雪
- ・南都七大寺（うち奈良市域）  
興福寺、東大寺、西大寺、薬師寺、元興寺、大安寺
- ・世界遺産登録遺産  
東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡
- ・新たに選定されたインベントリー

インベントリーの名称	概要	情報化された対象
かおり風景100選	平成13年 環境省	・ならの墨づくり ・なら燈花会のろうそく
日本遺産・百選	平成14年 シンクタンクせとうち総合研究機構	・古都奈良の文化財（東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡）
日本の夕陽百選	特定非営利活動法人日本列島夕陽と朝日の郷づくり協会	・平城宮朱雀門 ・東大寺二月堂
日本の音風景100選	平成8年 環境庁（現環境省）	・春日野の鹿と諸寺の鐘
日本の夜景百選	平成16年 新日本三大夜景・夜景100選事務局	・若草山
新日本三大夜景	平成15年 新日本三大夜景・夜景100選事務局	・若草山
平成百景	平成21年 読売新聞社	・奈良の社寺
新日本観光地百選	昭和62年 読売新聞社	・奈良（東大寺、春日大社、平城宮跡、西ノ京、柳生）
わたしの旅100選	平成17年 文化庁	・仏教の伝来から民衆の信仰を得るまでの旅（うち奈良市内は東大寺、唐招提寺） ・太平記「南朝」ゆかりの地を訪ねて（うち奈良市内は興福寺、東大寺、春日大社、元興寺など） ・近畿（関西）の世界遺産を巡る旅（うち奈良市内は東大寺、興福寺、春日大社、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡） ・歴史と文化の相互関係を見聞する世界遺産の旅（うち奈良市内は東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡） ・「近くて遠い国」から「近くて近い国」へ（うち奈良市内は東大寺、元興寺、奈良公園、平城宮跡、唐招提寺、薬師寺）
日本さくら名所100選	平成2年 財団法人日本さくらの会	・奈良公園
美しい日本の歴史的風土100選（特別枠）	平成19年 財団法人古都保存財団等	・世界文化遺産指定地域「古都奈良の文化財」
日本の歴史公園100選	平成18年 社団法人日本公園緑地協会	・奈良公園
人と自然が織りなす日本の風景百選	平成17年 名鉄グループ、「人と自然が織りなす日本の風景百選 実行委員会」	・薬師寺のある奈良西の京 ・奈良若草山の山焼き
歴史の道百選	平成8年 文化庁	・柳生街道
公共建築百選	平成10年 建設省（現国土交通省）	・奈良県新公会堂 ・奈良県本庁舎 ・奈良国立博物館西新館
疏水百選	平成18年 農林水産省	・大和平野
都市景観100選	平成3年～平成12年 国土交通省	・奈良公園地区（平成5年） ・奈良町地区（平成8年）
日本の都市公園100選	平成元年 緑の文明学会、社団法人日本公園緑地協会	・奈良公園
日本の道100選	昭和61～62年 建設省（現国土交通省）等	・暗越奈良街道
ヘリテージング100選	平成18～19年 毎日新聞社	・日本聖公会奈良基督教会礼拝堂 ・JR旧奈良駅舎 ・奈良ホテル ・奈良国立博物館